

令和4年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和4年6月17日
愛知県

1 病害虫名：カシルリオトシブミ *Euops splendidus* Voss

2 発生作物：センリョウ

3 発生地域：西三河地域

4 発生確認の経過

令和3年7月、西三河地域のセンリョウ栽培ほ場で、センリョウの天葉（実の周りの上位葉）に長楕円形の食害痕による被害が確認された（写真1）。同時に、食害を受けたセンリョウの葉上にカシルリオトシブミ成虫（写真2、3）がしばしば確認された。

その後、愛知県農業総合試験場における室内試験により、カシルリオトシブミがセンリョウに同様の長楕円形の食害痕を残すことから、本種がセンリョウを食害することが明らかになった。

5 発生状況

これまで、国内におけるカシルリオトシブミによる被害の報告はない。

6 本種の形態及び特徴

カシルリオトシブミはオトシブミ科の甲虫で、成虫の体長は3.5mm前後、本州・四国・九州およびシベリアに分布する。極めて多食性で、15科以上の植物を寄主あるいは野外で食用として利用する。

本種成虫の活動時期は晩春から夏で、雌成虫はイタドリ、フジ、コナラ、イヌコリヤナギなどで揺籃を作り産卵する。

本種の生活環は不明な点が多いが、中部地方では初夏から盛夏に、イタドリに形成された揺籃から羽化した新成虫が分散して、タデ科、シソ科、アカバナ科、ブドウ科などの植物を摂食し、その後越冬に入る年1化性である可能性が高いとされている。

7 被害

ほ場における観察結果から本種の新成虫は、センリョウの開花期（6月末～7月ごろ）で天葉がまだ柔らかい時期に、天葉を集中的に加害すると考えられる。

8 防除対策

(1) 令和4年6月17日現在、本種に対して登録農薬はない。

(2) 本種の発生及び被害の早期発見に努める。

明確な防除方法は確立されていないが、ほ場における観察結果から、発生密度を

抑えるために、発生源となる雑草の除去や、株の間引きによるほ場の通風の確保などが考えられる。

9 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室

電話 0561-62-0085 内線471



写真1 センリョウ天葉の食害痕



写真2 センリョウ葉上の
カシルリオトシブミ



写真3 カシルリオトシブミ成虫